
棗×直枝の後日談。

忍野八雲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

棗×直枝の後日談。

【Zコード】

N3375BA

【作者名】

忍野八雲

【あらすじ】

いつだか書いた奴の続きです

「なあ、理樹……」

「恭介、は……恥ずかしいよう」

「慣れだ、慣れ。似合つてゐるぜ」

僕ら以外誰もいない恭介の部屋。ついこの前問題になつていたこの、メイド服。結局、僕が着せられることになつてしまつて……。

「そつだな……、取り敢えず『お帰りなさいませ、『主人様』、と

『い、いくじ恭介の頼みでもこれ以上は無理、絶対無理……』

そつ言つて、逃げようとする僕の腕を恭介は掴む。

「まあ、待てよ。大体そんな格好で寮を歩き回る気か？」

「……ツ……する』よ、恭介……」

「諦めろよ、俺の暇つぶしに付き合つと思つてさ？別に、ただ楽し
い理樹のコスプレ観賞会だら？忘年会の一発芸とかそこいらへんで使
えるぜ？」

「コスプレつて……。こつちは嫌なんだけどなあ。

……何時も強引で、人を振り回してばかりいて……。でも、それで
も……憧れるような人間で、リトルバスターZに入つてからはどん

な時でも恭介の背中を見てきた。

(でも……)

近いうちに、彼は僕らの知らない『遠く』にいくのだ。もう彼の背中は見えなくなってしまう。そう思つと、急に今、思つてることとかそんなことを言つてみたくなってしまった。

「わかつたよ……でも、その前にさ。ちよつと、言いたいことがあるんだ」

恭介に、もたれかかる。

僕の身体はすっぽり入つてしまつ。

……終わりが近い。そう感じてしまうと胸のあたりが窮屈になる。それを否定したくて、いやこれからにつなげていきたくて。……今こうして僕らが、誰一人欠けることなくみんな笑つて過ごしていられる。幸せで、限りある時間が終わりを告げるまで、僕は最後まで恭介についていこうつて思つた。

「そのさ、えつと恥ずかしいんだけど。といつが、このタイミングで言つのも。……ツ、この前言つてたことについて、で！」

「この前？なんか言つたつけか？俺

恭介は首をかしげる。そんな恭介に思わず笑みが零れる。だから、そのままの表情で、

「僕も、その、好きだよ？恭介のこと……」

恭介ルートEND

「…………、ヒツコはいががでしょう」

と、西園さんはやけに薄い本を片手に僕にズイッと寄つてくる。その瞳はいつものおつとりとしたものではなく、残念ながら燃えていた。いや、萌えていた。

「い、いや、その……。確かに、僕は恭介のことは好きだけど。それはあくまで友人というか憧れ的なものであつて。ああ、なんというか西園さんが求めているものじゃないからっ……！」

僕は、その強い瞳から逃れるように手をそらす。

「ならば、なりましょう……今からでも、遅くはありますん……ほり、恭介さんのところへつ……！」

「ちよつと、西園さん……う、腕引っ張らないでよ……」

そんなわけで、最後まで欲望に忠実な西園さんでした……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3375ba/>

棗×直枝の後日談。

2012年1月8日20時54分発行